

聖書:ダニエル書6章16～28節

説教:この方こそ生ける神

はじめに

ダニエルは、母国であるユダから補囚となってバビロンに連れて来られ、ネブカドネツアル王に仕える者となりました。それからおよそ六十数年経ったとき、メディア人ダレイオス王が攻めてきてバビロンは滅び、メディア・ペルシャ帝国となり、ダニエルはダレイオスに見いだされて、ダレイオスに次ぐ大臣となります。もともと補囚の身分であり、またバビロン人とは異なる神を信じるダニエルが国のトップに立ったことを苦々しく思った人々は、王のところに押しかけて、ダレイオス王以外の者に祈願をした者は獅子の穴に投げ込まれる、という禁令を發布させるように働きかけます。ダニエルはこのことを知りながら、いつものようにエルサレムに向けて開けた窓から神に祈ったところ、その現場を敵のスパイに押さえられてしまい、禁令に違反したという罪で逮捕され、獅子の穴に投げ込まれることになった。これが前回までのあらすじです。

皆さんは既にお気づきだと思うのですが、前にもこれと似たような話しが3章にありました。ダニエルの三人の友人たち、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴがネブカドネツアル王が造った金の像を拝まないという罪で告発され、火の燃える炉の中に投げ込まれながらも、炉の中に神のような人が現れて三人は助かった。そのような話でした。同じダニエル書の中に非常に似た話が二つ出て来るということは何か意味があると考えべきでしょう。それで今日は3章と6章を比べながら、ダニエルを通して見えてくる神のお姿を探っていくことにします。

## 1 3章と6章を比べる

### 1) 訴えられた理由

ダニエルも三人の友人たちも、いきなり穴の中に投げ込まれたのではなく、ほかの人たちに訴えられたことがきっかけでした。3章8節。「このため、この機会に、あるカルデア人たちが進み出て、ユダヤ人たちを中傷して言った。」ダニエルの場合は6章13節です。「王よ。ユダからの捕虜の一人ダニエルは、あなたと、ご署名になった禁令を無視して、日に三度、自分勝手な祈願をしております。」

彼らは自分たちの国の者ではなくユダヤ人であり、ユダからの捕虜という本来は卑しい身分なのに、不当に高い地位についている。どちらのケースも人のねたみによって訴えられている。そこが共通している。では、このあとのストーリーの流れも同じかどうか。

### 2) 三人の友人とダニエルが語ったことば

穴に投げ込まれる前と、穴から無事に生還した後、そのときそれぞれ彼らは何を語ったかを比べてみます。三人の友人たちは穴に投げ込まれる前にこう語っていました。3章17, 18節。「私たちが仕える神は、火の燃える炉から私たちを救い出すことができます。王よ、あなたの手からでも救い出します。しかし、たとえそうでなくても、王よ、ご承知ください。私たちはあなたの神々には仕えず、あなたが建てた金の像を拝むこともしません。」

では穴から出て来たとき、三人が何を語ったのか。不思議なことに何も書かれていません。ダニエルの場合はこれとは反対です。穴に投げ込まれる前のことばはいっさい書かれていない。その代わりに、穴から生還したときのことばは書かれています。6章22節。「私の神が御使いを送り、獅子の口をふさいでくださったので、獅子は私に何の危害も加えませんでした。それは、神の前に私が潔白であることが認められたからです。王よ、あなたに対しても、私は何も悪いことはしていません。」

### 3) 同じ信仰

こうして比べてみると、3章と6章は話の筋としてよく似ているのにも関わらず、三人の友人とダニエルの語ったことばの取り扱いに大きな違いがある。これをどう考えるか。3章と6章は別々なのではなくて、むしろ、二つで一つのセットになっていると考えたらどうでしょう。ダニエルが沈黙しているときは、三人がダニエルに代わって語る。それとは逆に三人が沈黙しているときは、ダニエルが三人に代わって語る。そう考えるのです。そう考える理由があります。ダニエルも三人も、同じときにユダから捕虜として連れて来られた仲間でした。ダニエルが、王の夢の解きあかし問題に巻き込まれて死刑を宣告されたとき、この三人は一緒に祈ってくれた。そういう信仰の友だったのです。四人は同じ信仰の上に立っていますから、語ることばもほとんど同じと考えてよい。

#### 4) たとえそうでなくても

そうしますと、ダニエルが穴に投げ込まれる前、彼はこんな信仰に立っていたことになります。「私が仕える神は、獅子の穴から私を救い出すことができます。しかし、たとえそうでなくても、私はほかの神々を拝むことはしません。私はエルサレムの神殿に住んでおられる神にだけ祈ります。」

そのような信仰に立ちながらダニエルは獅子の穴に投げ込まれます。ところが、神の御使いがやってきて獅子の口をふさいでくれたので、ダニエルは何の傷も受けずに無事に穴から引き上げられていきます。

## 2 疑問

### 1) ダニエルのように成れない

私たちはこれをどう読めばよいのでしょうか。ダニエルのような信仰を持つなら、どんなことがあっても神は私たちを救ってくださる。そのような教訓でしょうか。それは間違いではない。確かにそうのとおりです。でも私たちの本音はどうなのでしょう。ダニエルのような信仰を持ちましようと言われて、「はいそうします」と言える人が何人いるでしょうか。すぐに出来るというのなら、何も苦労はいりません。信じてから今日までダニエルのようになりたいと願って努力しても失敗の連続ではないですか。だから困っている。どうしたらよいのか、そこで皆さんが悩んでいるのではないですか。

### 2) 「死んだら手遅れだ」

ダニエルのようにできるのかできないのか、そのような問題の他に、ここにはもう一つの問題が横たわっています。三人の友人とダニエルは、「たとえそうでなくても」という信仰に立ちながら穴に投げ込まれました。幸いにして四人は救い出されましたが、いつもこんなにうまくいくわけではありません。死ぬことだってあります。実際に歴史を振り返れば、多くの殉教者が出たわけです。そんな人達はどのようなのでしょうか。世の人たちは言うでしょう。「もう手遅れです。死んだら終わりだ。結局、信仰なんて結局意味がない。心の不安を和らげるための慰めにしか過ぎない。」

## 3 神

### 1) 封印された石

本当でしょうか。もちろんそうではないはずです。でもどうやってそれを証明するか。こう考えて

みましょう。聖書の中で、信じていても手遅れだったというような人がいるかどうか。もしいるなら、その人がその後どうなったかを見てみる。それで調べてみるといえるわけです。ほかでもないイエス・キリストです。ヘブル12章12節に、「信仰の創始者であり完成者であるイエス」と書かれています。模範となるほどの信仰をもっておられた方が、十字架で死なれ、そのなきがらが墓に納められました。その墓の穴はどうなっていたでしょうか。ダニエルが投げ込まれた穴にはしっかりと封印がされました。それと同じように、イエスも完全に封印された墓の穴に横たえられてしまう。この封印は何を意味するか。世の人達のことばで言えば、「完全に手遅れ」、「もう取り返しができない。」私たち人間の限界を象徴しています。

### 2) からの墓 よみがえり

でもこの方は三日目によみがえられます。なぜよみがえることができたのか。イエスは神なので、それで自分の力でよみがえったのか。そうではない。この方は十字架ですべての権威も権力もお捨てになり、十字架におかかりになった。ただひとつ、信仰だけは捨てなかった。それが十字架です。それではなぜよみがえられたのか。父なる神が穴の中に投げ込まれたイエスの信仰をご覧になり、わたしのひとり子は潔白である、そう認めてくださったからではないですか。人の目には手遅れに見えても、神にとっては手遅れではない。そのことがあるから、私たちはこの生ける神を信じているわけです。

### 3) 子を思う父なる神

こうしてみると、ダニエルと三人の友人の通っていったところから、父なる神とイエス・キリストの姿が浮き上がってくるように感じます。彼らは、人のねたみによって中傷され、告発されて穴の中に投げ込まれました。それと同じようにイエスもパリサイ人、律法学者たちのねたみによって十字架におかかりになりました。

ひとり子であるイエス・キリストが十字架におつきなつたとき、父なる神がどのような思いでいたのかについては、聖書のどこを探しても書かれていません。でも、親が子を思う心は神も人も変わらないはず。いったいどんな気持ちであったのか。

ダレイオス王を見ましょう。18節。「こうして王は宮殿に帰り、一晩中断食をした。側女も召し寄せず、眠ることもしなかった。」そして20節。

「その穴に近づくと、王はダニエルに悲痛な声で呼びかけ、こうダニエルに言った。」

心配で心配でならない。だからダニエルが無事だとわかったとき、王は大いに喜びます。それだけではない、いつの間にか王はダニエルの神を信じる者に変えられ、国中に自分の信仰を証していくのです。ダレイオス王の姿からは、父なる神の心がどのようなものであったのかを読み取ることができます。

そのダレイオス王は言いました。「この方こそ生ける神。」金や銅や土や木や石で作られた神はなにもできません。しかしダニエルが信じ、ダレイオス王も信じ、そして私たちが信じている神は生きておられます。「たとえそうでなくても」、たとえ祈りがかなえられないように見えても、私たちが十字架を信じる時、すでに潔白とされている。神に対しても何も悪いことはしていないと、宣言を受けている。だからあなたは必ず救われていく。あなたの神は生ける神だから、手遅れということはない。ないよりも主は三日目の朝、よみがえられたではないか。あなたはそれを信じてよい。ひとり子のことをこれほどまでに心配して下さった父なる神は、それとまったく同じように私たちのこともまるで食事が喉を通らなくなるほどに心配して下さっている。今日、主は語ってくださいませ。